

1-1-1 健康づくり 1 小分野・各施策の大綱を構成する最も基本的な単位となる30の施策。

細分野	5年後のまち【P】	5年後のまちの実現に効果のあった取組(効果のあった取組から順に)【D】	取組による5年後のまちへの効果の内容とその根拠【C】
① 身体の健康	<p>① 健(検)診や地域の活動により、一人ひとりが自然に健康に対する関心を持ち、元気で生きがいを持った市民が増えている。</p> <p>3 5年後のまち:各細分野において、市民や事業者、行政が共に5年後に実現を目指す将来の暮らしや、まちの姿、行動</p> <p>2 細分野:30の小分野のもと、79の細分野を設定したものを。</p>	<p>5 「行政の5年間の主な取組」に掲げる項目のうち、特に「5年後のまち」の実現に向けて効果のあった取組を3つ以内で選択。</p> <p>① 生駒健康ウォーキングマップを活用した歩こう会や地域組織に同マップを活用した運動事業を推進します。</p>	<p>6 がん検診指定医療機関に対し、検診体制にかかる確認を実施。</p> <p>② 生駒健康ウォーキングマップ24」のコースを活用した『歩こう会』は、29年度より開始。市民団体の協力を得て、コースの先導やストレッチ指導に加え、市内の名所のガイドを実施。4年間で、24コースのうち16コースを市民とともに歩いた。令和2年度は、コロナ禍においても市民が身近に健康づくりを継続できるよう、生駒市観光ボランティアガイドの会の協力を得て名所の音声ガイドを作成し、マップやホームページ、オープンデータに掲載。歩こう会もコロナ対策を講じながら行い、日々の健康づくりにつなげることができた。また、いこみウォーキング倶楽部では、事業評価のためアンケート調査を実施。約8割強の方に運動習慣が身に付いたとの結果が得られた。</p>
		<p>①8 禁煙相談やイベントを開催し、禁煙や受動喫煙防止の啓発を行います。</p>	<p>令和元年度より、ふるさと生駒応援寄付金を活用し、「禁煙サポートプログラム」というインターネットシステム利用。市看護職員が個々の悩みに応じた応援メールで禁煙をサポートし、令和2年度は参加者の5割が禁煙に成功。卒煙成功後も1年間の継続フォローを実施し、これまでに5名が1年後も禁煙を継続できている。また、コロナ禍において、禁煙イベント等が中止となったが、Twitterで37回/年に渡り、受動喫煙や新型たばこの害について啓発。その他、乳幼児健診やマタニティコンシェルジュの窓口で禁煙リーフレットを配布。</p>
② 心の健康	<p>② 住民同士の声かけや助け合い活動、相談機関の活用により、心の健康が維持でき、自分らしく生きがいを持ち、安心して暮らすことができている。</p> <p>市民実感性 【市民満足度調査 R2.8月実施】</p> <p>「5年後のまちが実現していると思う」+「どちらかといえば実現していると思う」の割合</p> <p>51.2% (参考) 前回 -%</p>	<p>②3 健康づくりリーダーの養成にあたって、ゲートキーパーに関する内容をより充実させ、人材育成を図ります。</p>	<p>本市の自殺対策の重点施策の対象として掲げられている高齢者への取り組みとして、寿大学受講者を対象にゲートキーパー研修を実施(131名参加)。アンケート結果からは、まわりの人の変化への気づきや重要性、話の聴き方についての認識が高まった等の意見が多かった。受講前後で比較すると、自殺への社会的取り組みの必要性や、自殺は身近な問題として捉えるべきものであるという認識を持つ人が10%増加した。</p>
		<p>②5 生駒市自殺対策計画に基づき、庁内横断的な相談支援体制を整えます。</p>	<p>令和元年度より自殺対策協議会を開催。今年度は全国や本市の自殺の現状、コロナ禍において自殺者が増加する危険性が高まっており、現状分析を行うことや、支援の情報発信の方法を工夫するなど、全庁で自殺対策に取り組む必要があることを共有した。</p>
		<p>4 「5年後のまち」について、市民の実感としてまち全体がどの程度実現しているかをアンケートで調査。 (※令和2年度市民満足度調査結果)</p>	<p>7 「市民ができること」について、市民の取組状況をアンケートで調査。 (※令和2年度市民満足度調査結果)</p>

「市民ができること」取組状況	【市民満足度調査 R2.8月実施】	「十分取り組んでいる」+「取り組んでいる」	(参考) 前回
① 個人レベルで健(検)診や食事、運動等に関心を持ち、積極的に定期的を受診している。		53.7%	-
② 悩みや困難を抱えた人を孤立させないため、気になる人を見かけた時に声をかけ、必要時には見守りや相談機関につなげている。		13.3%	-

多様な主体との協創による取組【C】	5年後のまちを実現するにあたっての課題とその解決方法【A】	指標【C】																																																						
<p>8 「多様な主体との協創」の項目のうち、令和2年度に実施したものとその効果。</p> <p>●生駒市がん検診指定医療機関管理報告受け検診予約</p> <p>●生駒市健康づくり推進員連絡協議会、生駒市観光ボランティアガイド(の会)の協力により実施。</p> <p>●卒煙成功者の体験談をTwitterの啓発で活用。</p>	<p>9 5年後のまちを実現するにあたっての課題と、どのようにその課題を解決していこうと考えているかの説明。</p> <p>令和元年から2年間活用していたPC専用のシステムを変更し、R3年度からはスマホやPCで手軽に利用できるアプリを採用予定。より手軽に、確実な禁煙サポートを受ける事が可能となる。 禁煙すすめ隊(禁煙サポートOB、生駒市健康づくり推進員連絡協議会)の結成により、地域に根差した広報活動の強化を実施予定。</p>	<p>①がん検診精密検査受診率(%)</p> <table border="1"> <tr><th>年次</th><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td></tr> <tr><th>受診率(%)</th><td>79.0</td><td>85.6</td><td>88.4</td><td>87.1</td><td>86.4</td><td>88.5</td><td>89.3</td><td>90.0</td></tr> <tr><th>目指す値</th><td></td><td></td><td></td><td>R1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><th>実績値</th><td></td><td></td><td></td><td>R1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>87.1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>86.38</td></tr> </table> <p>細分野の進捗度【C】</p> <p>成果(進捗度選択の理由)【C】</p> <p>11 5年後のまちの実現に向けて、その達成度を測る「ものさし」として設定した指標の実績値及び各年度において目指す値。</p>	年次	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	受診率(%)	79.0	85.6	88.4	87.1	86.4	88.5	89.3	90.0	目指す値				R1					実績値				R1									87.1													86.38
年次	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5																																																
受診率(%)	79.0	85.6	88.4	87.1	86.4	88.5	89.3	90.0																																																
目指す値				R1																																																				
実績値				R1																																																				
				87.1																																																				
								86.38																																																
	<p>10 課題解決のために必要な要素のチェック</p>	<p>13 5年後のまちの進捗度を選択した理由</p>																																																						
<p>12 5年後のまちの進捗度を6段階で選択</p> <p>A: 5年後のまちをすでに実現している B1: 5年後のまちの実現に向けて順調に進んでいる B2: 5年後のまちの実現に向けて概ね順調に進んでいる C1: 5年後のまちの実現にはもう少し努力が必要である C2: 5年後のまちの実現には努力が必要である C3: 5年後のまちの実現には相当努力が必要である</p>	<p>課題解決のために必要な要素【A】</p> <p><input type="checkbox"/> 予算 <input checked="" type="checkbox"/> 人員 <input type="checkbox"/> 組織体制</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> その他 (啓発)</p>	<p>②自殺死亡率(人/10万人)</p> <p>細分野の進捗度【C】</p> <p>成果(進捗度選択の理由)【C】</p> <p>C1 ころの健康づくりに向け、情報配信や人材育成に取り組んでいるが、コロナ禍で自殺の要因とされる生活困窮や孤独等が発生しやすい状況は継続すると予想される。今後も変化しやすい環境に適した情報配信や体制づくりが必要であることから、C1と評価した。</p>																																																						

A: 5年後のまちをすでに実現している B1: 5年後のまちの実現に向けて順調に進んでいる B2: 5年後のまちの実現に向けて概ね順調に進んでいる C1: 5年後のまちの実現にはもう少し努力が必要である C2: 5年後のまちの実現には努力が必要である C3: 5年後のまちの実現には相当努力が必要である

総合計画審議会からの「5年後のまち」実現に向けた提言等	
<p>14 前年度総合計画審議会からいただいたご意見等を記載。 ※検証後は今年度のご意見に書き換えます。</p>	<p>若年層の健康への関心が低いことが課題だと考えられる。各種検診やイベントについて実施日時、実施場所、費用負担等を検討し、若い人が受診しやすい環境を整える。また、若年層の自覚死亡率の向上を図る。若年層の失業などによる、更なる健康づくりの推進を図る。</p>